

平成28年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

免許状更新講習 ～生徒指導・学級経営に活かす体験活動～

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

教員が体験活動の意義について理解するとともに、児童・生徒の集団宿泊活動を効果的に実施するための基本的な体験活動の指導技術を身に付ける。また、学習指導要領における体験活動の取扱いを理解し、教育課程の編成や教育活動に体験活動を取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。

2. 事業の概要

(1) 期 日

平成28年8月17日（水）～19日（金） 2泊3日

(2) 参加者

① 募集対象・人数

小学校教諭（中学校教諭も受講可）・40人

② 参加人数

17人

(3) 講師等

① 講義・実習：「体験活動の導入とその指導法」

内容：ねらいに応じた体験活動の計画の仕方や指導のポイントを理解する講義・実習

指導：国立吉備青少年自然の家 次長 高藤 佳明

② 実習1：「カッター活動の教育効果と実習」

内容：吉備のフィールドを利用した体験活動や教科での学習を通して、子供同士の関係を深めるための指導法を学ぶ実習

指導：国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職 徳永 正樹

③ 講義1：「体験活動の意義と学習指導要領」

内容：子供の現状を踏まえ体験活動の必要性と教育効果、また、教育課程における「体験活動」の位置づけに関する講義

指導：國學院大學 人間開発学部 教授 杉田 洋 氏

④ 講義2：「教育の現状と課題」

内容：子供をとりまく現状から、現在の教員が期待されていることに関する講義

講師：岡山県教育庁義務教育課 課長 福原 洋子 氏

⑤ 実習2：「火起こし体験と野外炊事の理論と実践」

内容：達成感のある原始の「火起こし体験」を体感するとともに、野外炊事を通して子供への指導技術、安全管理の視点等について理解する実習

指導：国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職 瀧田 正宏

⑥ 実習3：「オリエンテーリングの指導法と実践」

内容：「オリエンテーリング」を活用し、集団と個の関わりについて意識づけを明確にするなど実践的な指導方法を習得する実習

指導：国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職 瀧田 正宏

⑦ 講義3：「集団宿泊体験活動の企画・運営」

内容：国立吉備青少年自然の家で宿泊体験を実施している小学校の取組から意義や指導のポイント、その効果等を理解する講義

指導：国立吉備青少年自然の家 所長 越宗 倫生

(4) 企画・運営のポイント

- ① アイスブレイクから始まり、活動の合間に話し合いの時間を設けるなど、「仲間づくり」を意識した内容の運営を行った。
- ② 生徒指導や学級経営に活かすことができるように、参加者に十分な体験をしてもらうとともに、班での意見交換も大切にするようにした。

3. 活動の内容等

(1) 日程

8月17日(水)			
9:00	受付	16:00	講義「体験活動の意義と学習指導要領」
9:30	開講式		
10:00	講義・演習「体験活動の導入とその指導法」	18:00	夕食・入浴
		20:00	情報交換会
12:00	昼食(お弁当)	22:00	就寝
13:00	実習「カッター活動の教育効果と実習」		

8月18日(木)			
6:15	起床・洗面・清掃	15:00	実習「オリエンテーリングの指導法と実践」
7:15	朝のつどい・朝食		
9:00	講義「教育の現状と課題」	18:00	夕食・入浴
11:30	実習「火起こし体験・野外炊事の理論と実践」	20:00	自習
		22:00	就寝

8月19日(金)			
6:15	起床・洗面・清掃	12:00	昼食
7:15	朝のつどい・朝食	13:00	評価「履修認定試験」
9:45	講義「集団宿泊体験活動の企画・運営」	14:00	閉講式

(2) 活動の状況



【体験活動の導入とその指導法】



【体験活動の導入とその指導法】



【体験活動の導入とその指導法】



【カッター活動の教育効果と実習】



【体験活動の意義と学習指導要領】



【教育の現状と課題】



【火起こし体験と野外炊事の理論と実践】



【オリエンテーリングの指導法と実践】



【集団宿泊体験活動の企画・運営】



【集団宿泊体験活動の企画・運営】

#### 4. 成果・課題

##### (1) 満足度

満足：100%

##### (2) 参加者の声

- ① 教育者としての視点を持ちながら研修できたのがよかったです。
- ② 徐々に心が開かれていく内容構成で3日目は別れが名残惜しいほどでした。
- ③ 講義と実習とバランスよく計画されていました。グループ活動が多いのもよかったです。
- ④ 目標づくりの大切さがよくわかりました。
- ⑤ 体験活動の果たすべき役割や効果がわかりました。
- ⑥ 講義でいろいろな事例を見ることができ、感動的でした。それまでの取り組みが分かるような話も聞いてみたかったです。(子どもたち、保護者とどう進めてきたのか。など)

##### (3) 成果

- ① 趣旨にもある体験活動の意義を、実際に体験する中で実感することができた。また、集団的活動を効果的に実施するために必要な、「仲間づくり」の過程を体験しながら学習することができた。
- ② ビーイングを作成することで、「ねらい」を常に意識した活動になるとともに、「ふりかえり」の重要性が再認識できた。

##### (4) 今後の課題

参加者の満足度は非常に高かったのですが、ニーズに合った内容といえるが、参加人数が定員に満たなかったため、広報活動や日程の工夫などを考える必要がある。

担当:企画指導専門職 瀧田 正宏